

# 「大阪モデル」の修正について

※令和2年10月10日以降を「第三波」とする。

## ＜修正にあたっての基本的考え方＞

- 現行「大阪モデル」の基本的考え方は変更しない。

### 「大阪モデル」の基本的考え方

- ・ 感染拡大状況を判断するため、府独自に指標を設定し、日々モニタリング・見える化。
- ・ 各指標について、「感染拡大の兆候」と「感染の収束状況」を判断するための基準を設定し、各基準の状況に応じて、府民に周知する。

- 第三波が収束していない状況においては、現行「大阪モデル」で設定していない「非常事態解除」の基準を新たに設定するのみの修正とする。
- 「警戒」の基準（解除基準含む）など「大阪モデル」全体の修正については、今後、感染収束時に議論する。

## ＜「大阪モデル」の修正点＞

- 「警戒・非常事態解除」の基準のうち、重症病床使用率60%未満を「非常事態解除」の基準とする。

また、7日間連続で「非常事態解除」の基準を満たした場合に、信号を点灯（赤⇒黄）する。

（理由）現在は「非常事態」のみの解除基準の設定がない。

重症患者は陽性者の年齢構成に影響するため、重症患者数が減少傾向に転じた後も一定期間、重症患者数の推移をみる必要がある。

※なお、重症センターの運用時には、大阪モデルの「病床確保数」に重症センター病床数（30床）を含める。

## 「大阪モデル」モニタリング指標 非常事態の解除

分析事項	モニタリング指標	府民に対する警戒の基準	府民に対する非常事態の基準	府民に対する非常事態解除の基準	府民に対する警戒解除の基準
		① 2以上かつ ② 10人以上	—	修正（新規設定）	今後再検討
(1) 市中での感染拡大状況	① 新規陽性者における感染経路不明者7日間移動平均前週増加比	—	—	—	—
	② 新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均	—	—	—	② 10人未満
(2) 新規陽性患者の拡大状況	【参考①】新規陽性者における感染経路不明者の割合	—	—	—	—
	③ 7日間合計新規陽性者数	120人以上かつ後半3日間で半数以上	—	—	—
	④ 直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	—	—	—	0.5人未満
(3) 病床等の逼迫状況	【参考②】確定診断検査における陽性率の7日間移動平均	—	—	—	—
	⑤ 患者受入重症病床使用率	—	70%以上 (「警戒（黄色）」信号点灯した日から起算して25日以内)	7日間連続 60%未満	60%未満
	【参考③】患者受入軽症中等症病床使用率 【参考④】患者受入宿泊療養施設部屋数使用率	—	—	—	—
各指標を全て満たした場合における信号		黄	赤	黄	緑

＜考慮事項＞

- 警戒基準引き上げにより、緩やかな感染拡大の兆候に対しては早期の探知が機能しないことから、都道府県による社会への協力要請を行うべき国が示した基準日の条件（直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数2.5人）を満たした場合には、指標①②に基づく感染経路不明者の増加傾向、及び新規陽性患者の日々の増加傾向を踏まえて、専門家会議の構成員等の意見を聴取し、対策本部会議で「警戒（黄色）」信号点灯の要否を決定するものとする。
- 国による緊急事態宣言が出された場合、対策本部会議で「非常事態（赤色）」信号点灯の要否を決定するものとする。